

優良賞

恩師—孫先生

孟 凯 峰
MENG KAI FENG

私は小学生のころから運動が得意だったので、スポーツ専門校に入ることができました。中学生になった頃には、陸上の県大会にも出られるほど運動ができました。スポーツ万能の子供達が集まったスポーツ専門学校から、代表で県大会に出られると決まったときは、家族も、クラスメートもとても喜んでくれましたし、自分も最高の気分でした。県大会の種目には縄跳びがあり、それはメダルが取れそうな気もしました。

しかし、県大会ですから、各地から優秀な選手がたくさん集まって来ます。大会が近づくにつれて、だんだんとメダルをとる自信がなくなり、不安になってきました。

当時の体育の担任は、孫という先生でした。私が不安になっていたころ、ある日の昼休みに、孫先生が私のもとにやって来ました。

「君、縄跳び上手だってね。私も若い時は強かったよ。競争してみない？」と話しかけてきました。いくら体育の先生と言っても、年は年ですから、負ける訳はないだろうと思い、挑戦を受けることにしました。クラスメートが見守る中、先生と私の縄跳び競争がはじまりました。競技は1分間に何回跳べるかというものです。スタートして1分間必死で跳んでも私は平気な顔をしていましたが、先生は息切れしていました。結果は先生が176回、私が183回でした。圧

勝して得意気の私に、先生は、「長い間練習してなかったからだ。明日もやろう。」と言いました。クラスメートの前で先生に勝てて気分がよかったです。次の日の挑戦も受けることにしました。次の日もまた勝ちましたが、先生はあきらまず、結局大会前日まで毎日縄跳びの勝負をすることになりました。毎日私が勝ち、気分よく昼休みを過ごしました。先生からも、いろいろな飛び方を教えてもらったりしているうちに、大会の不安はなくなっていました。県大会で私は優勝することができました。表彰台に立った私は、自分の強さに酔いしれていました。その頃は自分の実力で優勝できたと自惚れていましたが、あれから10年以上が経ち、今思えば、あの時先生が毎日私に付き合ってくれなければ私はメダルをとることはできなかったと思うようになりました。

日本に来る前は、自分は何をやってもできると考えていましたが、日本に来てからは、言葉や習慣、仕事など、うまくいかないことばかりで自信を失いかけていました。県大会で優勝したときの自分と今の自分を比べてとても情けなく思えました。けれど、今になって、実は先生が支えてくれていたことに気づいてからは、とても気が楽になりました。今思い出すと優勝したときに、一番喜んでくれたのは先生でした。私は日本での研修でたくさんのことを勉強して、中国に帰ったときに、孫先生のように影で誰かを支えられるような人間になりたいと思います。孫先生、今さらですが、ありがとうございました。

区 分	技能実習生
国 籍	中国
職 種	鉄工
受入れ企業	株式会社ジョーニシ
受入れ団体	協同組合滋賀ジェイ・シー・エル